

乳幼児を家庭で養育する母親の心理的特徴①

— 母親へのアンケート調査から —

Psychological Features of Mothers Who Nurse Their Small Infant at Home ①
— from a Questionnaire Survey of the Mothers —

寺井弘実
Hiromi TERAJI

〈要旨〉

乳幼児期のこころの育ちは思春期のこころを支える基盤となる。この時期の子どもたちの居場所は、平成25年度金沢市の0歳児の75%・1歳児の64%が家庭で養育されており、家庭で子育てしている母親たちの多くが日中に子育て支援センター等の施設を利用している現状がある。子育て支援センターとは、地域全体で子育てを支援する基盤を固めるために、育児不安についての相談、子育てサークルの育成・支援、家庭的保育を行う者への支援を実施することで、地域の子育て家庭に対する育児支援を目的とした施設である。

今回、子育て支援センターに來所した母親への「育児に対する心理状態」のアンケート調査を行い、妊娠中から現在までの育児中の心理状態の特徴、期待する支援内容を明らかにして、妊娠中からの乳幼児期までの子育て支援内容を考察する。合わせて、発達に遅れを疑われる子どもを養育する母親にも同様な調査を実施して、母親の心理的特徴を比較検討してこのような母親への具体的支援をも考察する。

〈キーワード〉

子育て支援・家庭での養育・子育て支援センター・乳幼児期

1 はじめに

石川県金沢市は平成25年度末の時点での未就園児「0歳児=75%・1歳児=64%・2歳児=62%」と公表している。3歳児未満の乳幼児67%が家庭で養育されている現状を示唆している。このような未就園児は、公立や民間の子育て支援センター等で母親とともに日中を過ごすことが多い。子育て支援センターとは、地域全体で子育てを支援する基盤形成を図るために、育児不安についての相談指導、子育てサークル等の育成・支援、家庭的保育を行う者への支援などを実施して、地域の子育て家庭に対する育児支援を目的とした施設である。金沢市内には7か所、野々市市7か所、また石川県内の各市町村も設置しており、どの施設も多くの母子が利用している。筆者は、母子関係が形成される乳幼児期の子育て支援がその後の子どものこころの育ちを促すために非常に重要であり、この時期に家庭で養育する母親への支援内容を考えていくことが子育て支援の重要な課題であると考えている。

今回、石川県内の子育て支援センターに來所する母親に「現在の育児に対しての心理状態」をアンケート調査して、

妊娠中から現在までの子育てに関しての心理状態の変化を明らかにし、「妊娠中から乳幼児期までに必要な母親への支援とは何か」を明らかにして、乳幼児期の子どもを家庭で養育する母親への支援策を考察する。

さらに、1歳6か月児健康診査において、言葉の遅れなどの発達面の経過観察が必要と認められた幼児や母子関係・育児不安を持つ母親等への支援相談指導のための親子教室に参加した母親へのアンケート調査も同時に行い、支援の在り方の内容を比較検討する。

2 児童期・思春期の問題行動と乳幼児期の子育て

2-1 児童期・思春期の相談事例から

筆者は思春期に顕在化してくる「不登校」「摂食障害」「盗み」などの相談を受けているが、実は乳幼児期から「子どもとの関わり方」に悩みながら苦しんでいた母親に出会うことは珍しくない。

母親の育児不安を軽減させることはこころの育ちを考えるとときに重要であり、これを示唆する事例である。

事例1 主訴：小学校6年生・不登校

低学年から登校渋りが始まり、高学年から不登校になる。小学校6年から、「母親が作った食事に毒が入っている」といって母親が作った食事を拒否し、カップラーメン・レトルト食品のみ食べるようになる。乳幼児期の養育を母親に聞くと「離乳食には苦労しました。一生懸命作っても子どもは食べてくれなくて、そのことが、子どもが私を拒否しているように感じたことを覚えています。それ以来、子育ては私にとっては苦しみでした。」と、0歳児からの関わりに困難を感じ続けて現在に至ることを語った。

事例2 主訴：小学校5年生・摂食障害

子育ては妊娠中から始まっている。妊娠中に長期の入院生活を送った後に出産した母親は、「妊娠中から体調が悪く、出産まで入院生活でした。高齢出産でもあり、医者から最後の出産だといわれました。生まれてきた子どもの子育ては、緊張の連続でした。離乳食も秤で正確に計り作りましたが、緊張していた育児でした。育児が楽しいと思ったことは今まで一度もありません」と語った。

2-2 乳幼児のこころの育ちと子育て支援の重要性

乳幼児期のこころの育ちの大切さを長年論じてきた精神科医小倉清は、「思春期に至ってさまざまな形の臨床的な問題を呈する人々に接することが多くなってきた。もちろん、思春期特有の心理、心性というものがあって、それらについての理解をしっかりとって臨床にあたるのが大切なことは言うまでもない。しかし、いわゆる子どもと呼ばれる最後の時期に入っていく、この年齢の人々は生まれて以来、今日にいたるまでに体験された事柄、体験したくても体験できなかった事柄、それらをめぐる願望や空想などの多さにさまざまな思いが渦巻くことになる。乳幼児期の心が思春期に現れてくる」⁽¹⁾「もし、3か月経っても母親が《わが子が何を考えているのか・何を求めているのかわからない・可愛いと思えない》ということであれば、子どもの一生の心の問題なるかもしれない程の重大なことである。しかし、母親の成育歴や夫婦関係などがからんできて複雑化するが、早期の時点での修復が重要である。そして、3歳までに人間は全ての感情を体験して、6歳までに自分が決まってくる」⁽²⁾と述べて、幼児期の母子関係の重要性を述べている。また、同じく精神科医川畑友二は「人間のこころの基礎を作るのは3歳以前であり、この記憶は多くは無意識の中に残っている。子育て支援は、現在の子どものこころの問題だけに注意を向けるのではなく、親・家族全体の歴史を理解しながら親・家族全体への支援が重要である」⁽³⁾と述べている。

同様に乳幼児を養育する母親への心理的支援は、子育て支援の柱となるべきだと筆者は考える。

3 研究方法

3-1 調査対象

- 石川県内の4か所の子育ての育て支援センターを利用した母親 合計：144名
- 石川県内：1歳半健診の事後教室に参加した母親 合計：41名

3-2 調査手続き

- 調査期間：平成26年4月～平成27年3月
- 子育て支援センターにアンケート用紙を置き、来所した母親に記入してもらう場合 と 筆者が子育て支援センターで研修会講師をした後に記入してもらう場合の2方法。親子教室は教室終了後に記入を依頼して回収した。

3-3 調査内容

- 本調査のために使用された質問内容は以下の様である。
- おさんは第一子ですか？【はい いいえ】
 - 「妊娠中に想像していた子育て」と「実際の子育て」には違いがありますか？【ある】⇒内容を記入してください。
 - 妊娠中に「子育てに関する情報・知識」で教えてほしい内容はありますか？
 - 現在、「子育てに関する情報・知識」で教えてほしい内容はありますか？
 - どのような相談機関が身近に必要と思うか？どのような方に相談をしたいと思えますか？（自由記入）

3-4 倫理的配慮

無記名のアンケートであり、個人が特定されることはないことは書面で説明している。

4 結果

- 「妊娠中に想像していた子育て」と「実際の子育て」に違いはありましたか？

(1) 子育て支援センターでの回答：144名の内訳

第1子=93名、第2子=51名

- *「妊娠中と実際の子育ての違いがあった」との回答は、第1子の母親の60%（56名）・第2子の母親の69%（35名）であり、どちらの母親も半数以上が、予想とは異なると回答した。特に第2子を育てている母親の割合は7割と高く、予想以上の疲労感を感じていた。

違いの内容 (%)

	内容	第1子	第2子
1	母親の負担が大きすぎ（自分の時間が全くない・手がかかる）等	40%	46%
2	予想以上に体力がいる	24%	6%

3	子育ての難しさを感じた：しつけ・関わり方		23%
4	やさしくしたいがすぐに怒る・イライラ	14%	17%
5	夜泣き	11%	
6	成長の速さに戸惑う	9%	
7	予想以上に夫の協力が無い	2%	12%
8	想像以上に楽しい・幸せ	2%	12%
その他	育児書との違い・子どもの敏感さに驚く 等	2%	3%

(2) 親子教室での回答：41名の内訳

第1子=31名／第2子=10名

*「妊娠中と実際の子育ての違いがあった」との回答は、第1子の母親の61%（19名）・第2子の母親の90%（9名）であり、発達の問題が疑われる第2子の子どもを育てる9割の母親が第1子の子育てとの違いに強い戸惑いを感じている。

違いの内容 (%)

	内容	第1子	第2子
1	母親の負担が大きすぎ（自分の時間が全くない・手がかかる）等	53%	22%
2	予想以上に体力がいる	11%	22%
3	子育ての難しさを感じた：しつけ・関わり方		
4	やさしくしたいがすぐに怒る・イライラする	11%	
5	個人差と思うが成長の遅さが気になる：対応の難しさに戸惑う	16%	67%
6	予想以上に夫の協力が無い	5%	12%
7	想像以上に楽しい・幸せ	5%	
	育児書をもて焦る		5%
	夜泣き		5%

■「妊娠中」に教えてもらいたかった知識・情報

子育て支援センター・遊びの教室 合計：185名 (人)

1	0歳～3歳までのこころの発達に関する理解・情報	13
2	母乳に関する情報・知識	12
3	乳児との関わり方（遊び方 等）	10
4	新生児の健康管理に関する情報	9
5	育児に関する公的サービス情報	8
6	食事・離乳食	7
7	子育ては楽しいことばかりではないこと	4
その他	・きょうだいの関わり方：2 ・夫への子育て教育：1 ・虫歯：1 ・個人差があること：1 ・物を買わずに済ませないこと：1 等	計6

こころの発達の理解・母乳の理解・乳幼児との関わり方・健康管理・公的サービスの情報・食事 等の内容が多い。

■「現在、子育ての情報・知識」で教えてほしい内容

(1) 子育て支援センターでの回答：

第1子=93名／第2子=51名

合計144名の回答

(人) (%)

	第1子	第2子
1：しつけ方	19：30%	5：10%
2：食事（卒乳・アレルギー・偏食）	12：13%	2：4%
3：こころの発達理解	10：11%	4：8%
4：基本的生活習慣	8：9%	1：2%
4：保育園について	8：9%	2：4%
5：習い事について	3：3%	0
5：基本的生活習慣	3：3%	1：2%
5：公的サービス	3：3%	3：6%
その他：遊び方	2	3：6%
きょうだい関係	0	2
性別の子育て法	0	1

第1子の母親は、しつけ・食事・こころの発達に関する理解・情報を望んでいる。第2子の母親も同様の傾向があるが、幼児食は少なくなり、保育園への関心・きょうだい関係が大きくなっている。第1子の内容にあった「習い事・いつからどんな習い事をしたらよいか」の内容は第2子では記載がなかった。

(2) 親子教室での回答：

第1子=31名／第2子=10名

合計：41名 (人) (%)

	第1子	第2子
子どもとの関わり方	3：10%	1：10%
言葉・排泄	3：10%	1：10%
母親への精神的支援	3：10%	1：10%
しつけ方	2：6%	1：10%
幼児食	2：6%	0
療育情報	2：6%	1：10%
危険回避方法	1：3%	1：10%

回答内容には、母親への精神的支援の要望・療育情報の内容があり、母親の育児不安がうかがえる。

■どのような相談場所：内容が必要ですか。 (人)

子育て支援センター・遊びの教室

合計：185名

1	子育て支援センターでの保育士との相談	31
2	先輩ママ・子育て経験者・ママ友 等との相談	26
3	専門家・心理カウンセラーなど	12
4	祖父母・父親への子育ての研修などをしてほしい	3
5	体調管理を気軽に聴ける場所	3
6	メール相談・医師が来る相談室・保育園利用を気軽に 等	各 1

ちょっとしたことを気軽に相談する相手・場所を求めている一方で、専門的な相談を求めている母親もいる。

5 考察

■子育て支援センターの回答からは、第2子を育てる母親は、第1子を育てる母親よりも、育児疲労を感じていた。「2人目だからのんびり子育てができると想像して、2人が泣いたりするので、外出できなくなった」「2人目だから、笑顔でよいママが理想でしたが、実際は年下の子どもに手がかかりイライラして怒る自分がいる」と回答しており、夫への手助けの少なさに不満を持つ回答内容も第2子の母親が多い。その一方で「想像以上に子育てが楽しい・幸せ」と感じている母親は2人の子どもを育てている母親の方が多かった。

第2子を育てる母親には、「より疲労感を感じている層」と「子育てを楽しんでいる層」の2層がある。第1子が成長して年齢的に「しつけ」段階年齢になり、親としての「子育ての難しさ」を感じ始めているのも2人の子どもを育てる母親である。夫の理解を進める内容も含めて、きょうだいを育てる母親への支援策を今後は取り入れる必要があることが示唆される。川畑³⁾が指摘するように家族支援の視点が必要である。

■親子教室に参加した母親の回答は子育て支援センターに來所する母親とは異なる。

対象の子どもが第1子である母親の6割、第2子である母親の9割が予想以上の育児疲労を感じていた。予想との違いの内容を、第1子の母親は、「自分の時間がない等の精神的負担が大きい」という回答内容が多かったが、子どもが第2子である母親は、子どもの成長の遅さ・対応の難しさに不安を感じ、「個人差と思うが・・・成長の遅さ・対応の難しさ」という内容を7割の母親が回答している。「いろいろな場面で思うようになりません!」「個人差だと思うのですが、成長が周りと違うので不安です」など母親の苦悩が見える。また、2人の子どもを育てる母親がより夫の協力のないことに不満を持っており、きょうだいを抱えた育児不安の母親を支援するために家族支援の視点が重要であることを示唆される。

■「妊娠中」に教えてもらいたかった内容に関しては、筆者が「こころの育ちと関わり方」という題名で乳幼児の精神発達を講演した後のアンケートも含まれている関係

とも考えられるが、実際の子育てが始まる以前に、「子どものこころの育ちと関わり方」に関する基本的な知識獲得を望んでいた。また、「母乳」「健康管理」という「身体的発達」に関する内容も多く、「乳幼児期のこころと身体の育ち」を事前に知っておきたいという母親の心理が見える。こころの育ちの内容を妊娠中に取り入れる必要性がある。

■「現在、知りたい子育て情報・知識に関して」は、自由記載のためか回答数が少なかったが、より明確な気持ちで回答されていると考える。

(1) 子育て支援センターでの回答

「しつけ方」「食事」「こころの発達の理解」が第1子・第2子の母親ともに関心が高いが、第1子の母親は保育園・きょうだい関係に関する情報にも関心を寄せており、2歳児からの就園を考えていることが示唆される。

(2) 親子教室参加者での回答

「療育関係」「母親の精神的支援」「危険回避の方法」等の内容があり、子どもの成長に不安を抱きながら子育てをしている母親が見える。発達障害という言葉が流布し早期発見早期療育の流れがあるが、このような母親を身近に専門的に支援する相談場所・スタッフが整っていないのが現状であり、今後の課題である。

■どのような相談場所を望んでいるかに関しては、気軽に相談できる先輩ママや子育て支援センターの保育士を挙げている一方で、専門的な知識を持った相談員をも求めている。この2通りが今後の相談場所としては必要であり、気軽に立ち寄れる子育て支援センター内に専門的な相談室を併設し、不安を抱えた母親をその場で支援する専門スタッフが必要である。

■まとめ：

人格の基盤を形成する乳幼児期の子育て支援は妊娠中から始めると考えて、「子どものこころと身体の育ちの道筋を妊娠中に知らせていくこと」・「乳幼児期の子育て支援内容を家族の視点を重視する支援内容に変えていくこと」・「子育て支援センター内に専門的なスタッフを配置すること」が家庭で保育する母親への支援策の要点であるといえる。

注

- (1) 「乳幼児期と思春期・青年期のつながり」安田生命精神保健講座：1996
- (2) 乳幼児のこころの発達：明治安田生命子ども講座2015
- (3) 親子としてともに育つ時期の子育て支援の実際：明治安田生命子ども講座2015